

所 報

No. 33

佐賀県教育センター

佐賀県佐賀郡大和町川上

TEL 09526-2-5211

も く じ

- 学校教育が求める基本的能力の育成について思う..... 1
- 情報処理教育講座開設一年を顧みて..... 2
- 昭和57年度の研修事業の状況と来年度の構想..... 4
- 読書環境の充実を..... 6
- 登校拒否児の実態と治療的指導への一考察..... 7
- 昭和57年度研究紀要の概要..... 8
- 昭和57年度長期研修を終えて..... 10
- 教育実践・研究記録の入選作品決まる..... 12

学校教育が求める 基本的能力の育成について思う

佐賀県教育センター研修三課長 田中邦秀



情報化社会と呼ばれるようになって久しい。そこでは、多様な媒体によって、多様な情報が利用者の手もとに送りこまれる。この氾濫ともいえる情報をうまく処理して、自分の意志決定に役立てる態度・能力がない限り、情報の洪水に押し流される危険性がある。「情報処理能力」育成と呼ばれる所以である。

情報処理能力とは、既存の情報（知識）を組み合わせて、新しい情報やアイデアを作り出す能力である。例えば、算数・数学科において問題把握の後、その問題解明のために、仮説をたて、既存の知識や新しい考え方を駆使しながら、知り得る全ての事実を論理的に関連構成して仮説の実証をしていく。この筋道をたてて考え、処理していく能力を培うことが情報処理能力の育成である。

情報処理行動は、学校生活のあらゆる場面で行われている。国語の鑑賞場面、社会科の問題追究の場面、道徳における行動の価値判断の場面などは、典型的な情報処理行動の場面である。そこではそれぞれの児童生徒が持つ既存の知識や価値感が作用して、多様な個性的な情報処理行動が展開しているのである。

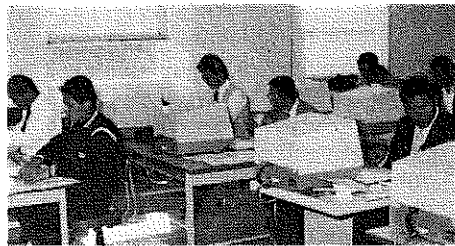
子どもたちが、学習活動の中で、情報処理を行なうとき、どういう情報を、どのように使

から処理をしようとしているのか、そこにどのような問題があるか、適切な情報処理をさせるには、どうしたらよいかを観察・究明することは教師の当然の責務である。また、教師は、各教科学習や教科外活動等における情報の性格を明確にさせてやらなければならない。年齢差、到達度の違い、性別など子どもの態様に合わせて「生の情報」を提供するか、「加工した」一次情報、二次情報を提供するか等の配慮が必要である。さらに、学校社会における情報の形態の中で、文章・言葉で表現される視聴覚的情報の外に、環境全体に滲透している「雰囲気的情報」があることを忘れてはならない。何故ならこの雰囲気的情報は、身体全体で感じるもので、校風・学級の雰囲気を作りあげており、時には、子どもの行動に強い影響を与えることがあるからである。

情報処理能力の育成は、学校教育が要求する基本的能力、即ち、判断の根拠を自らに厳しく問い、それによって判断に必要な情報を、客観的資料に基づいて作りあげていく能力の育成に外ならない。この大任を果たすべく使命を負うわれわれは、自らが高度な情報処理能力を身につけるための努力を続けなければならない。

情報処理教育講座開設

一年を顧みて



(教職員の電子計算機実習風景)

はじめに

中型電子計算機、数値制御工作機械が9月に搬入され、10月1日から稼動した。

本年度は、6講座を開設した。大別すると商業科担当者を対象とする「情報処理講座」、工業科担当者を対象とする「情報技術講座」、「数値制御工作機械講座」である。

本年度の講座のねらいは、すでに現在学校において情報処理教育を担当されている先生方、または、昭和58年度(よりセンターで実施される)生徒実習の引率予定の先生方、並びに長期研修、内地留学の経験のある先生方を対象として、操作技術および生徒実習の展開法に重点をおいた。

鳥栖工業高等学校から生徒実習の申し込みがあり、電気科2クラスの実習を行った。来年度から実施する生徒実習の運営方法を検討中であり、好い機会でもあったので、大いに参考になった。

1. 電子計算機に関する教職員の研修

商 業	情報処理 (1班)	5日間	15名
	情報処理 (2班)	5日間	9名
工 業	情報技術 (1班)	8日間	19名
	情報技術 (2班)	8日間	26名

生徒実習時の実習形態を想定して、TSS方式による端末(キャラクタディスプレイ)装置の操作方法に重点をおき、商業関係では、データ処理のためのカード、磁気テープ等による入出をも行った。

おもな講座

(商業・工業関係の共通内容)

- 光学文字読取装置(OCR)用のシートにプログラムを記入し、これを光学文字読取装置に読み取らせ、磁気ディスクに記憶させると同時にラインプリンタに印字させる実習。
- 印字されたものと、自分の書いたプログラムとを比べ、誤って読み取った部分をチェックした後、端末(キャラクタディスプレイ)装置から、TSSによって完成させる実習。
- プログラムを端末(キャラクタディスプレイ)装置からTSSにより各人が入力する実習。
- データ作成の実習(磁気ディスク装置へ)
- 実行結果を端末装置(キャラクタディスプレイ)へ出力、ラインプリンタへ出力させる実習。

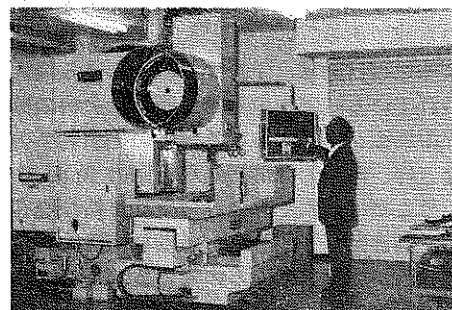
(商業関係のみの内容)

- データ作成の実習(カード)
- プログラムの実行は、カード読取装置から入力、磁気テープ装置の入出力、または、磁気ディスク装置の入出力をさせる実習。

なお、今年の講座は、前述のとおり各装置の操作方法を重点としたが、来年度からは、初級・中級に分けて、情報処理技術の研修内容に重点をおき、情報処理教育に関する指導力の向上につとめたい。

2. 数値制御工作機械に関する教職員の研修

(1) 講座名

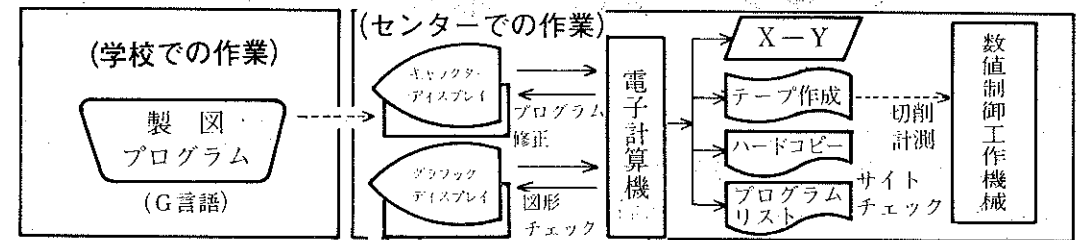


(数値制御工作機械の実習風景)

- 数値制御工作機械講座(一班)3日間(1/14、1/16、1/18) 県立6工業から11名

- 数値制御工作機械講座(二班)3日間(1/14、1/17、1/18) 県立6工業から11名

(2) 実習の流れ図



(3) 講座内容

- (1日目) ○ マシニングセンターの説明
 - 手動プログラミング学習
- (2日目) ○ テープ作成実習
 - キャラクタディスプレイの操作と簡単なプログラムの修正方法。
 - TSS(キャラクタディスプレイ)で入力し、修正し、グラフィックディスプレイに図形表示させ、ハードコピー、X-Yブックに出力させる(図面チェック)。
 - テープ作成。
 - サイトチェック。
- (3日目) ○ マシニングセンターによる切削実習。
 - 切削(アクリル板)

今回の講座は、プログラム作成からテープ作成までの過程に重点をおいた。来年度からの講座は、4日間の日程でマシニングセンターの操作までの内容を取り入れていく。

3. 生徒実習を終えての感想

鳥栖工業高等学校・電気科 井丈 貴治

センターでコンピュータの実習をさせていただくことを聞いたとき、期待よりも不安が先に立ち、十分な実習が出来るかどうか心配でした。

入所式も終り、講義室で懇切でいいいな指導を受けているうちに、興味と自信がわいてきました。実習は、TSS方式で行い、作成から結果まで端末で操作できるのです。英字と数字・点とカンマを間違えても、また、かっこ一つ間違えてもコンピュータは、エラーと表示します。それで何回もやり直しをして、結果が出た時などは、最高の喜びを感じました。結局コンピュータに仕事をさせるには人間のほうでそれだけ色々な準備をしてやらねばならないという事がよくわかりました。一日の実習が、ほん

とうに短く感じました。

学校には、高尾先生手作りの「TLC S12」のマイコン2台と、EX80BSのベーシックマイコン1台、計3台があります。この3台を使用し、授業で作ったフォートランプログラムを、アセンブラ言語とベーシック言語に直して実行させています。授業が週2時間、実習は、ローテーションの関係で、一か年に16時間位しかありません。ハードとソフトを並行して行っているため、時間が足りません。

ハードでは、真理値表を作成し、論理式を立て、ブール代数やカルノー図法を利用して論理式を簡単にし、結線図を書き、ICで実際に組立てる実験もしています。

今までに、半加算器、全加算器(3桁)等を作りました。「TLC S12」では、タイプより入力した言語が解読され、機械語になってRAMに記憶されている状況も、LEDで見る事が出来ますが、一日も早く学校にコンピュータが入り、センターで指導いただいたような実習が出来ればと痛感しました。

現在は、「情報処理社会」であるといわれ、多くの情報が私達をとりまわっています。このような情報を処理するコンピュータは、ますます利用範囲が広がっています。そのような社会に対応して行くため、センターの実習を通じて得たソフトの知識を伸ばし、努力していきたいと思っています。

おわりに

昭和58年度から、長期研修、断続研修、短期研修(教育センター研修講座一覧参照)を計画している。

本年度の講座の反省をもとに各講座の内容を充実して行きたいと思っている。

(情報処理教育係 石動丸大晃)

昭和57年度の

研修事業の状況と来年度の構想

昭和57年度の短期研修講座では、① 効果的な研修 ②研修意欲にこたえる内容の充実 ③研修方法の工夫等の基本的考え方を柱にすえて、102講座を開講し、受講者数は、2,662名に達した。その状況及び受講者の感想等をお知らせしたい。

1. 本年度の状況

(1) 実施した講座数と受講者数

Table with 4 columns: 校種, 講座数, 定員, 受講者数. Rows include 幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校, 合同(小中特), and 計.

(2) 期間別講座数・延日数

Table with 4 columns: 講座日数, 57年度, ※58年度. Rows include 2日間, 3日間, 4日間, 5日間, 断続10日間, 断続20日間, 講座数, 講座延日数.

(3) 所外講師の招へい状況

Table with 3 columns: 地区, 講師数. Rows include 県内 (大学等, 教職員), 県外 (九州内大学等, 関西以西, 関東地区), and 計.

(4) 受講者の感想

Table with 7 columns: 校種別, 割合, 対象数, 全体感想 (ア, イ, ウ), 人数, %. Rows include 幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校, 合同, and 計.

ウ...よくなかった
イ...どちらともいえない。
ア...よかった。

Table with 7 columns: 講座の内容 (ア, イ, ウ), 人数, %. Rows include 64, 788, 282, 153, 452, 1,689.

Table with 7 columns: 校種別, 割合, 対象数, 講師 (ア, イ, ウ), 人数, %. Rows include 幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校, 合同, and 計.

◎ 意見・要望等

1. 役立ったこと

- (1) 専門的内容...756人
(2) 技能的・演習的内容...665人
(3) 実践的内容...637人
(4) 動機づけとして...297人
(5) 情動的な面...75人

このように、多くの先生方が意欲的に受講され、その結果についてもかなり好評を得たものと思う。

2. 来年度の構想—短期研修講座

- (1) 基本的な考え方
(2) 短期研修講座の事業計画

Table with 3 columns: 校種, 講座数, 受講定員. Rows include 幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校, 合同(小中特), and 計.

- 教科関係講座 34講座 (断研 1)
○ 教育経営関係講座 27講座
○ 教育相談関係講座 12講座 (断研 2)
○ 理科教育関係講座 19講座
○ 情報処理関係 9講座 (断研 3)

(3) 特色

- ① 小学校国語講座の増設
② 小・中学校学級経営講座の増設
③ 視聴覚教育指導者講座の充実
④ 小・中学校理科講座の整理統合による内容の充実
⑤ 情報処理断研講座(断続20日)の新設等

(4) 期間別講座数 1の(2)表参照※

(5) 宿泊日の設定について

原則として宿泊日を設けている。来年度は教材研究、情報交換、座談会、グループワーク等に大いに活用したい。

3. 長期研修生の研修

(1) 昭和57年度の長期研修生

前期(4月~9月) 1名
後期(10月~3月) 19名
それぞれ、研究主題を決め、研究に取り組んでおられる。主題にかかわる専門的な内容は勿論、一般教養や人間的なつながりや研究方法等の習得など多大の効果を期待したい。

一人ひとりの児童・生徒の望ましい変容、つまり、人間として成長・発達を促すことを究極的なねらいとして教師が行う活動が研修であり、教師の本務だと信じる。

教師の変容、自己変革は研修への努力と主体的対応によって決まるのではないだろうか。研修にも、現場の実践に直接的な校内研修、個々の教師の研究、研究発表校の参観等、多くの機会がある。

その中で、教育センターの研修内容は、教科内容の専門知識、指導方法、教材分析、児童・生徒把握の力、学校・学級経営、教職への態度と基礎教養などが主である。多忙な学校生活の中で、自分を見つめなおす機会、として受講をおすすめしたい。

(教育経営係長 福田 靖)

読書環境の充実を

——特に、心的、雰囲気的な——

昨年行った読書調査の一部を紹介しながら、際立って考えさせられたことを述べてみたい。

- あなたは、読書をするのが好きですか。
(す き) 男子 74名 女子 91名 計 165名 (調査対象学年 小学6年生)
(あまり好きでない) 男子 51名 女子 34名 計 85名 (調査対象人数 男女各 125名)
- あなたが今まで教わった先生方は、本をよくすすめられましたか。

	よくすすめられた	どちらともいえない	あまりすすめられなかった
(読書好きな者)	45	39	16
(あまり好きでない者)	34	27	39
	100%		

読書をあまり好きでない児童への個々に応じた本のすすめ方に工夫の必要があろう。

- あなたは、お父さんやお母さんと本のことについて話し合うことがありますか。

	よくある	どちらともいえない	あまりない
(読書好きな者)	17	34	49
(あまり好きでない者)	8	18	74
	100%		

親が少しでも読書への関心を持っていることが、子供に好影響となるようだ。

- あなたの家には、本がたくさんあると思いますか。

	たくさんある	ふつう	あまりない
(読書好きな者)	62	33	5
(あまり好きでない者)	36	54	10
	100%		

子供たちの身近に本がたくさんあることが、本好きにする基本条件であるようだ。

- あなたは、いつごろからよく読書するようになりましたか。

(読書好きな者)	小学校入学前から	1、2年のころから	3、4年のころから	5、6年のころから	(なるべく早期から、各個人のレディネスに合わせた読書指導が必要であろう。)
	68人(41%)	37人(23%)	46人(28%)	14人(8%)	

- あなたが読書するようになったきっかけは、どんなことからですか。

	0	20	40	60	80	100(%)
ア. 父母がよく本を買ってくれて	72					
イ. 父母が読み聞かせをしてくれて	58					
ウ. 先生がよく本を紹介してくださって	11					
エ. 先生が読み聞かせをしてくださって	11					
オ. 兄弟や友達がよく本を読んでいて	53					
カ. 図書館だより等での本の紹介で	38					
キ. 新聞、テレビで本の内容を知って	31					

(ア〜キのような読書環境を充実させていくことが、しらすらすのうちに子供たちを読書へ誘っていくことになるだろう。)

この度の読書調査を通して、次のような読書環境の果たす役割を改めて考えさせられた。

- 特に幼児期から低学年のころ、教師や父母の読み聞かせ、語り聞かせが大切である。
- 子供たちに読書の持つ意味を熟知させると同時に、本と接する機会を多く持たせたい。
- 学校、家庭で本を媒介としたことばのや

りとりが大切である。(教師 ⇄ 子供 ⇄ 父母等)

- 学校、学級図書館だより等を通して、読書案内の工夫が大切である。
- 学校、家庭で中味の濃い本やいろいろなジャンルの本をそろえる必要がある。(教育資料係 平山 幸彦)

登校拒否児の実態と治療的指導への一考察

1. センターへの来談状況

佐賀県内で登校拒否児の発症率は1,000分の1～1,000分の2(国立肥前療養所 松本茂幸氏調べ 1982年)といわれている。教育センターにおける過去4か年の来談状況は下の表のとおりである。

年度	就学前	小	中	高	計
54	1	8	23	30	62
55	2	11	20	38	71
56	0	18	24	37	74
57	0	17	36	40	93
計	3	49	103	145	300

(左記の数字は実人数で本年度は93名の登校拒否児が来談したことになる)

※ 57年度→4～12月末日まで

登校拒否児は年を追って増加し、本年度は全相談実数の51%に達している。校種別の比率は小：中：高 → 1：2：3

で中・高(前思春期・思春期)に集中している。性別比では昭和57年度の場合からいえば、男：女 → 3：2

で男子の方が多い。これを校種別からみると

(小) 男：女 → 3：1

(中) 男：女 → 1：1

(高) 男：女 → 5：3 である。

2. 登校拒否児の人格と親の養育態度

思春期そのものが発達途上の危機であり、この時期をどのように克服するかが、少年少女の将来を左右するといっても過言ではない。児童期までの遊び体験における成功の喜び、失敗の

悔しさ、兄弟げんか、仲間との口論、仇名の呼びあい、上級生の威厳を知り、下級生をいたわることで慕われる等々、子ども同志の「タテとヨコ」の人間関係のなかで、子どもは

① 厳格と寛容の心にふれ ② 仲間のなかで役割を自覚し ③ 他人に頼りがちであると、発言力まで奪われ、仲間はずれにされる

④ 自分から進んで参加し、責任をもった行動で仲間から認められることにより、自分への自信と有能感をたかめる等々情緒性、社会性、独立心、自主性を徐々にではあるが、確実に習得していく。

ところで、登校拒否児に共通していえることは、これらの要素を欠いていることである。要するに「自我の弱さ」「幼なさ」である。

また、このような性格を形成する背後には、乳幼児期以来、児童期までの、両親または家族の養育態度があり、

① 世話の焼きすぎ、心配のしすぎ

② 金や物の与えすぎ

③ 親との心理的接触の欠如

など、いわゆる過保護・溺愛・放任というタイプである。

3. 子どもと親への対応

思春期に至るまで、十余年が経過していることから、登校拒否の理由を単純に決めつけることはできない。原因追求ももちろん大切であるが、それのみにふりまわされることが大事である。目の前にいる青ざめた、ひ弱な子どもと不安で気をもんでいる親の、「たった今」の気持ちや深く広く受け止めてやることである。親にも、子どもにもそれなりの、ひきずってきた

過去と歪んだ人間関係がある。この「片よった・せまい・短絡的」な考え方、感じ方、もの見かた、価値観を理解してくれる「重要な他者」によって、症児と親は心の眼を開き、「希望

」を胸にして、明日への一步を踏み出すのである。

(指導相談係長 小松 嘉明)

昭和57年度

研究紀要の概要

教育基礎調査——「学校場面における児童・生徒の意欲的行動に関する調査」——

児童・生徒が、学校生活の諸活動のどのような場面に、どのような姿で意欲的に取り組んでいるか、また、諸活動に対する意欲の度合いによって、彼らの態度にどのような違いがあるのかを、小・中・高校別、男女別等に調査し、それらの実態を把握するとともに、発達段階に応じて、どのような違いや特徴がみられるかを明らかにすることを試みた。

「書く生活」を豊かにする指導の工夫

(小・中国語)

これからの作文指導においては、作文活動の場や機会を拡充し、学校生活に広く機能する作文力養成の場を求めることが大切と思われる。興味を持って書き進めるような状況を作ってやることにより、児童・生徒の活発な作文活動を促すことができれば、作文力は身につくだろう。

そこで、生活の中に素材を求め、これを多角的な視点に立って教材化し、意欲を持って作文するような指導の手だてを考えた。

歴史学習における一人ひとりの学習意欲を高める指導法の研究(小・中社会)

— 歴史的郷土資料の取り扱いを中心として —
意欲的に児童・生徒が取りくむ授業へ改善することが急務である。前年度は興味・関心・意欲の実態を調査・分析した。本年度はこの結果をもとに郷土資料(人物、生活文化、遺跡・遺物等)の取り上げ方、取り扱い方をまとめ、その具体的な展開例を示すとともに、授業研究によって、それらの教材の取り扱い方を考察した。

個の学習状態に応じた授業システムの開発

——算数・中学校数学について——

昨今、基礎学力の向上、個性や能力に応じた教育の必要性が叫ばれている。それに答える一方策として、一斉授業における個別化をはかるにはどうしたらよいかを

- 個人差を学習スタイルに観点をおいてとらえ
- 2つの学習形態の授業システムによる

実験授業を通して、スタイル別、システム別の学習効果や学習意欲について分析と考察をした。

運用力を高める英語指導のあり方【中英】

——言語材料と場面——

「授業がわかる」——「わかったことが実際場面で使える」という英語指導のあり方を求めての2年間の継続研究。第1年次は「わかる授業」をめざす具体的な導入例を示し、第2年次は既習の言語材料が実際場面での程度使えるかを実態調査で明らかにし、各学年の言語材料について、それを生かす具体的な場面を設定し、その場面の中での対話例を示した。

新教材による物理実験の開発と指導法の研究

——小学校の光、中学・高校の電気・運動——

小学校のレンズの指導に、色鮮やかな光線が大きな屈折をみせる大型水レンズの製作・利用例を紹介。中学・高校の教師実験に、容易に読みとれる大型デジタル表示電圧計(PH計を含む)を、また、力学・運動の実験の精度を高め、2次元の放物運動や運動量保存なども生徒実験ができるようになる、放電式記録タイマーの製作・利用例を紹介する。

貴金属イオンを含む実験廃液の簡易処理の工夫

実験廃液処理法のうち、フェライト法について研究した。これは重金属イオンを含む廃液にFe²⁺を加えて水酸化物にして、加熱・空気酸化しフェライトとして除去する方法である。フェライト化反応がむつかしいイオンもあるが、

一応満足できる結果が得られた。またこの処理方法のポイントは、かくはん、温度・PH調整などのため、自動車のワイパー用モーター、模型用モーター、電子も温度制御装置などを利用した。

教育センター周辺における野外観察実習地の設定——3年継続研究の1年次

野外観察実習を、より効果的に研修講座に組み入れるため、本年度はセンター構内にあるシイ・カシ・モウソウチクを主とする林を、森林群落の実習地として調査、開発を試みた。

面積が狭いという欠点はあるものの、胸高直径53cmという大木を含み、階層構造も発達し、講座への利用価値が大きいことがわかった。

その利用と保全が、今後の大きな課題である。

県内各地の自然観察ルートの設定

——川上地区・塩田(久間)地区——

野外観察を通して、児童生徒の主体的な活動による理科教育を実践していくための一環として、地学分野における地域素材の開発と教材化を図るため、県内各地に観察ルートを設定を試みた。

今年度は、教育センターの周辺と塩田久間地区について地質概要および観察内容等についてまとめた。

新教育課程の実践と課題

——高校1年における学習内容と指導法——

この研究は、国・社・数・理・英の五教科による3ヶ年の継続研究としての、その第1年目の中間報告である。各教科の高校1年時における基礎的・基本的事項や中・高の関連性について、学習指導要領及び教材の分析によって明らかにしようとした。

次年度は、これを基盤に据えて、教材分析・研究授業を通して、さらに研究を深めていきたい。

道徳的実践力を深めるための指導

——主として道徳的心情を

高めることを中心として——

道徳的実践力を深めるための方法は種々考えられようが今回の研究では主として道徳的心情の面から追ってみた。

小・中学校の実践例を2つずつあげて結果を分析した。その結果、発問の表現法・資料分析の

効果・効果的な終末のあり方・資料の選定条件・板書の効果等について明らかになった。学校で行う道徳教育についても構造的にまとめた。

複式学級における効果的な読解指導法

2年次——「同単元同内容指導の実践」——

昨年度の実態調査をふまえ、文学的教材の読解を同単元同内容指導によって行った実践的研究である。

書く活動を重視し、個人指導を徹底することによって、自信をもって話し合い学習に参加し学年を超えた読みの深め合いが出来ることを、低・中・高学年ともに実証できた。説明文の読解指導については今後の課題である。

自ら考え実践する児童・生徒を育てる学級指導の研究 ——実践的研究を中心に——

2年継続のまとめとして、学校現場における学級指導の指導計画の有無、時間的配慮等追加調査をした。その上、学級指導の基本的性格を明確にし、指導計画の標準を示し、研究授業の実践を通して、授業展開の基本的指導過程、資料の位置づけ、授業にあたっての留意点を明らかにしようとして研究を進めてきた。学校現場での実践授業の参考になれば幸いである。

学習効果を高めるためのビデオ教材制作に関する研究

——中学校社会科「郷土学習」教材の制作——

視聴覚教材の特性を生かして、生徒の学習への興味を喚起する教材制作を考え、特に地域の崩壊がみられ、生徒の郷土意識がうすらぐ中での郷土学習の教材開発にとりくんだものである。県の歴史のあらましと現在に伝わる生活文化を中心に25分で構成している。またその視聴結果の分析によって、構成について考察している。

学校教育相談の理論と実践に関する研究

——教育相談ハンドブック(下)——

上巻では、子どもの示しやすい問題行動の症例について、その早期発見の目やすと具体的即事のかかり方をまとめた。下巻では、ひとりひとりの子どもたちが、ものの考え方や行動を変え適応力を伸ばしていくために果す「学校教育相談の役割」について、できるだけ簡潔にしかも具体的にまとめ、教育現場で手軽く活用できる「必携教育相談手引書」を作成した。

昭和57年度 長期研修を終えて

(国語) 自然の景観を見渡せる一階の静かな図書室。手を伸ばせば思う存分活用できる資料。この環境のなかで、小中高1名ずつが「叙述に即して正しく豊かに読むための指導」「生徒の読みを生かした授業展開」「文章表現の構想指導」のテーマで研究に取り組んだ。その間、いきづまって、苦しんだり悩んだりしたが、その時間こそが大事であったことに気づいた。担当の先生方の御指導に応えきれないことも多かったが、それぞれ研究授業も終え、まとめの時期となった。研修期間の6ヶ月は、苦しいこと楽しいこといろいろあったが、今考えると随分と短い期間に思われた。現場に帰ったら、この研修の成果を生かすよう生徒達と一緒に頑張っていく。

教科	
「学びの道、より深く、より広く。」	
(国語) 浦郷究(小) 大塚香(中) 竹下勝(高)	
(社会) 今田敏彦(小) (数学) 草場浩(小)	
池田治生(小) 塚本泰徳(中) 陣内輝久(高)	
(英語) 庭木朝子(中) 重松嘉人(高)	

(社会) 細長い6畳ほどの社会科準備室で、私は2人の先生方と一緒に毎日研究にいそしんでおります。入口に最も近い私の机から、東に5メートルの位置に主担当のM先生、北東2メートルほどに副担当のH先生がいらっしゃいます。私の研究は、この2人の先生方の懇切丁寧な御指導によって、遅々とした歩みながらも進んでおります。その上、向かい側の1課からS係長も時々お見えになり、貴重なアドバイスをしてくださり、私にとっては大きな励ましになります。また、研究に直接は関係ありませんが、先生方との話の中には、今まで知らなかった社会科についての事柄が次々と出てきて、耳学問の方も進んでおります。まことに、この準備室での研究は、社会科でいう立地条件に恵まれているといわねばな

「やった……大成功！」この一言が思わず出る瞬間、苦しみが喜びに変わる。それが、私たち理科の4人組です。

私たちは、「今までの教材のなかになにか新しい旋風を！」の共通の目標をっかけ、あえて自分の限界に挑戦している毎日です。

楽しくよくわかる授業を！	
江口 聆子……………小理(化地)	
森 潤一郎……………中理(化地)	
一ノ瀬昌彦……………中理(化地)	
緒方 務……………高理(物理)	

りません。

(算数・数学) 小(2)中(1)高(1)と日ごろ接触の少ない教師が、20㎡ほどの狭い部屋に頭をつき合わせ研修してきた。算数・数学といえば「落ちこぼれ」をつくる代表みたいに思われる現状から、「数学的な考え方」や「意欲を高める」ことなどを主題に設定したが、始めてみると内容の広さや深さに驚きなかなか自分のものとはなしえなかった。研修が進まない時は、互いに話し合い、所員の先生にも相談を持ちかけた。多忙な先生方に気軽に相談できるこの科の雰囲気は最高であった。3人の先生方の蘊蓄の深さはただただ頭が下がるばかりであった。研究授業においても先生方と長研生とが一つにまとまり、多方面の角度から研究会をもてた。これか

らも残された日々を大切にしながら、指導を仰ぎつつ研修を深め、3月の終わりにはすばらしい四重奏を奏でんことを祈るところである。

(英語) 「何で英語やるの？」という疑問と勉強不足の穴うめという気でやってきた。現場と違って、センターのチャイムは一日に4度だけ、忙しさの面からみても別天地である。一つ目のチャイムで歌あり、科学ありと専門家(?)の情報で満たされる長研生室の朝の会、楽しいひとときである。始めははりきってヘッドホンを耳に、今にペラペラに、の夢をもって。だんだん日がたち、係の前川指導主事のおどしや、すかしに、研修報告という重責に、一喜一憂。現場に役立つものをと、Hearing教材づくり、本文のSchematicに明け暮れている。

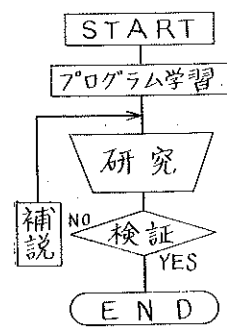
ここで、私たち4人の研修の様子を、少し紹介してみたいと思います。

江口「研修3か月目、やっと出会えた佐里層の基底円礫、この感動を子供たちにも分け与えなければ……。」

森 「ありゃりゃーまた失敗してしもうた。しかし、人間苦しむところに進歩があるものだから。」

一ノ瀬「石をみつめ、試験管をみつめ、あーまたちがう、きのうの石は、今日は変わっている。この迷が進歩である。」

緒方 「自分との戦い。なにが、自分をこんなに燃やすのだろう。毎日が失敗の繰り返しなのに。」



大和の緑の中にくっきりと浮かびあがる白い建物。その中で自分の希望する研究ができたのは本当に嬉しい。4年前、教育工学を初めて耳にした。以来、自分なりに勉強していたが、ここで全国の研究所の資料等を手にすると、教育工学も広

く深く進んでいることを痛感したし、多くの文献が私に様々な経験をもたらしてくれた。プログラム学習を中心として研究が進むにつれて、教える側が自学しなければいけないかを感じた。半年間研究したことは微々たるものかもしれない。だが、この貴重な体験は、今後、現場に帰り自己検証をする指標にもなると信じてやまない。

坂元先生の講話の中に「この一枚のプリント

多忙な現場からはなれ、素晴らしい環境の中で、所員の先生方の親切なご指導をうけて、半年間という長い間、研修をさせていただき、心から感謝しています。私たちは、「問題行動に対する教育相談の実践的研究」という研修主題でいろいろな研修をしました。少し例をあげま

教育相談	
—— 受容し共感し寄り添って ——	
山村元(小)	早田幸吾(中)
池田俊正(高)	

すと、所員の方などの面接場面の観察やカンファレンスへの参加。実際に面接をして、それについてカンファレンスをうける。発達障害児グループ指導、自閉異常行動、非行傾向、登校拒否などの講座の受講。中央児童相談所と国立肥前療養所情動障害センター見学。登校拒否児童生徒親の会への参加。文献研究などです。ここにきて驚いたことは、登校拒否の子供など情緒

生徒指導等に、追いまわされていたころとは異なり、センターにて伸び伸びと、研修している様子が、うかがえると思います。

今回のセンターの研修を通して、私たちは、自分の無知を知り、また教師の使命であるところの研修でさえ、いかにおろそかにしていたかを知りました。

このような意味においても、私たちは貴重な体験をし、今後の教師としてのあり方を、もう一度見直していきたいと思います。

にもたくさんの人々の努力と歴史があるのであります。」というのがありました。また、所員の先生方の「郷土の歴史教材」のビデオ編集を見学させていただきましたが、わずか数十分のものが完成するまでに何時間いや何日もかかっていることを聞き、その熱意に感服すると共に、身が引きしまる思いがしました。今までの何となく読む、見る、聞くという態度を反省しています。この長期研修に参加させていただき、所員の先生方の暖いご指導小中高のいろいろの分野の長

研生の先生方との話等、すべて有意義でした。研修はじっくりさせてもらえるし、実験授業、それについての研究分析・考察

その中での検定の方法など初体験を多く積みました。公開講座等にも自由に参加され、広い分野での見識も広まったと思っています。「よかったなあ。」が実感です。

障害をもつ子供たちが大変多いことです。今までの研修でわかったことは、カウンセラーはいつも人間愛の気持ち、人間尊重の気持ちをもって接すること、カウンセラーと来談者との信頼

関係が大切であること、カウンセラーの人間性が影響するので、豊かな人間性をもつよう努力す

ることが大切であること、教育相談は来談者の感情によりそい、来談者の成長を援助する過程そのものであることなどですが、実際に自分が担当してみると大変むずかしいです。心から来談者の気持ちや感情によりそうこと、また、すべてを受容し共感することなどを、ぜひ少しでも自分のものにし、今後の教育実践に役立てたいと思います。

昭和57年度

教育実践・研究記録の入選作品決まる

I 当センターが募集した昭和57年度「教育実践・研究記録」の応募しめ切りは、昭和57年12月7日でしたが、応募状況は下記のとおりでした。

小学校	11編
中学校	7編
高等学校・養護学校	4編
計	22編

これを教科・領域等別にみると、

小学校国語	2編
小学校社会	2
小学校算数	2
小学校図工	3
中学校数学	1
中学校美術	1
高等学校社会	1
高等学校美術	1
中学校学校経営	1
中学校学級経営	2
高等学校学級経営	1
中学校教育課程	1
中学校同和教育	1
小学校視聴覚教育	1
小学校特殊教育	1
養護学校特殊教育	1
計	22編

となっています。

II 上記22編の応募作品について、慎重・厳正に第一次審査及び第二次審査が行われ、次の6編が入選と決まりました。

なお、この入選作品は「教育実践・研究記録集No.4」として公表し、各学校へ配布する予定です。

—かな文字のとりたて指導

佐賀市立神野小学校

荒木信衣先生

○基礎学力を育てる算数科学習指導

—到達度評価を生かした低学年指導

鹿島市立鹿島小学校

池田良治先生

○色に対して興味を持たせる指導

—中学年における水彩絵の具での表現を通して

佐賀市立本庄小学校

百武久美子先生

○高校「日本史」授業における「プリント」学習の試み

佐賀県立佐賀西高等学校

吉田宗利先生

○教育目標の具現化

—生徒を愛容させる実践化をめざして

伊万里市立国見中学校

校長 西山経喜先生

○重度心身障害児の発達の可能性を引き出し育てる集団指導

佐賀県立中原養護学校

重 心 部

最後になりましたが、応募くださいました先生方に厚くお礼を申し上げますとともに、今後ともよろしく願いいたします。



<入選論文> (順不同)

○入門期のかな文字指導